

令和3年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 県知事賞 最優秀賞

「 災害への対策 」

鹿児島県 始良市立重富小学校 6年 ^{はやし}林 ^{あんな}杏奈

私は、令和になって、特に大雨による自然災害がたくさん発生していると、ニュースなどから感じるようになりました。

今年に入り1番大きかった災害は、静岡県熱海市で発生した豪雨による土砂災害です。熱海市では、大規模な土石流が発生しました。山の頂上付近から、およそ2キロにわたって家や人を飲み込みながら、相模湾まで土石流がとう達しました。この土石流で、改めて災害のおそろしさを知りました。自衛隊や警察そして消防の人たちがそうさく活動を行っていましたが、大量の土砂がせまい地域に流れ込んだため、そうさく活動は難こうしていました。また、大人数でそうさく活動をしていましたが、なかなか土砂が取り除けなかったのも、想像をはるかにこえる大規模災害だったことがよく分かりました。この土石流をもたらした原因は、降り続いた長雨だったと考えられます。熱海市では、土石流が発生する3日前から大雨が降り続いており、降り始めからの雨量が400ミリをこえる記録的な大雨でした。この大雨で、多くの水をふくんだ地ばんはくずれやすい状態でした。さらに、山頂のしゃ面付近は、建設現場などから出た土が運び込まれ、その盛り土も、被害を大きくした可能性があると考えられています。

全国各地では、線状降水帯と呼ばれる大雨の被害も起きています。鹿児島、宮崎、熊本の3県に、線状降水帯が発生し、各地で大雨が降りました。線状降水帯とは、激しい雨を降らせる積乱雲が連続して発生し、線状につながって長い時間、雨が降り続くことです。

今の時期は、入道雲がたくさん水分を運んで、突然激しい雨を降らせることがあります。今年の夏、鹿児島県に緊急安全確保が出たとき、始良市は大きな被害はありませんでしたが、薩摩川内市や伊佐市などは川がはんらんしたり、道路がかん水したり、大きな被害が出ました。同じ県でも被害の大きさが全くちがうので、私が住む町もいつ災害が発生してもおかしくない状態なのと言えます。2年前、私が住む家の近くを流れる川があふれたことがありました。私の家に被害はありませんでしたが、そのことがきっかけで、大雨が怖くなり、自然災害のおそろしさを肌で感じました。大雨によるしん水被害や土砂災害は、自然現象なのでいつどこで発生するか分かりません。しかし、大雨による被害を減らすことはできます。

私たちが、大雨の時にまずやることは、事前に雨雲レーダーを見て情報を集めることです。いつ、雨雲が接近するかわかると、大雨が降る時間帯が予測できたり、ひ難の準備をスムーズに行うことができたりするからです。また、ひ難場所だけではなく、ひ難経路を確認することも大切です。安全な道を通ってひ難することで、二次的な被害も防ぎ安全にひ難することができます。もう1つ大事な事は、同じ地域に住んでいる高齢者などに、状況を伝えること、そして、声かけをすることです。ニュースでは、地域の声かけで命が助かったという事例がありました。私たちも、周りに住んでいる人たちと、声かけをすることで、1つの命を救うことができるかもしれません。

鹿児島県でも記録的大雨が降ることがあります。いざ、災害が発生した時、被害を少しでも減らせるように、ふ段からひ難経路やき険か所を頭に入れて、いろいろな災害対策をしようと思いました。そして、全ての方々が安全で安心して暮らせる世の中へしていきたいと思います。